

公明党要望項目一覧

平成30年度11月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○公立学校、公共施設、避難所へのGHP（ガスヒートポンプ）エアコンの導入を検討すること。</p> <p>近年の異常高温の影響で、政府は2018年度補正予算案に公立学校へのエアコン設置費として822億円を計上した。</p> <p>GHPエアコンの利点として、①災害時の空調や非常用電源に利用できる ②電力・都市ガス系統途絶時にも自立運転できる ③経済性に優れる ④省エネ正に優れ、CO2排出が少ない ⑤環境負荷が少ない ⑥電力ピークカットに貢献できる、などの優位性があり、県立高等学校（緑風、鳥工、八頭、岩美）や県下小中学校（末恒、江山、智頭）などにも導入されている。</p> <p>今後のエアコン設置を進める上で、電気だけに頼るのは危険で、多様な選択肢として検討されたい。</p>	<p>公共施設における空調設備の整備については、対象施設の用途、使用状況等を踏まえた上で、経済性等を勘案して方式を決定している。</p> <p>県立学校では、既存受電設備の電気容量が不足する場合が多いこと、環境負荷の低減を図ることなどの理由から、トータルコストを比較検討した上で、GHP方式の空調設備を導入している。（県立学校32校中15校）</p> <p>一方、提案いただいた停電時に運転が可能で一部の非常電源としても使用できるGHPは、機器費、維持管理費用も割高となる一面がある。（同能力のGHPの1.2倍、EHP（電気式）の約2倍）</p> <p>今後の整備に際しては、災害時の対応の要否を踏まえつつ、コスト低減も図りながら対象施設に最適な方式を検討する。</p>
<p>○ユニバーサルデザインタクシーの車内環境を整備（UVカット）すること。</p> <p>鳥取県と日本財団は高齢者や障がい者、妊婦、ベビーカー利用者などが誰でも安心して移動できる環境をめざして200台のユニバーサルデザインタクシーの導入を進めている。車内のバリアフリー化を進めるうえで、日光過敏症などの障がい者対策として車内にUVカットフィルムを使用するなど環境整備をすること。</p>	<p>UDタクシー導入の際には、各事業者において、追加のグリップを設置したりステップ付近の照明をLED化するなど、より乗りやすく改良しており、車両の窓ガラスにおける日光の透過率については、車両の安全運行を確保するための法律上の基準があるが、所有者である県ハイヤータクシー協会に相談してみたい。</p>
<p>○キャッシュレス化を推進すること。</p> <p>2020年の東京五輪・パラリンピックに向け訪日外国人旅行者4,000万人を目標に掲げ、具体の対策のなかでキャッシュレス化を進めようとしている。世界銀行の調査では、一番進んでいる韓国が89.1%と最も高く、中国60%、カナダ55.4%、アメリカ45%、日本は18.4%と先進国のなかで非常に低いとの調査がある。鳥取県のインバウンド対策として県内でのキャッシュレス化を整備・推進すること。</p>	<p>本県を訪れる外国人観光客の利便性向上に向けては、観光パンフレットや案内看板の多言語化、山陰地域通訳案内士の養成による外国語によるコミュニケーションの円滑化等の取組と合わせて、キャッシュレス化についても鳥取県外国人観光客倍增促進補助金により民間事業者の「クレジットカード及び電子マネー対応機器等の設置」の取組を推進しているところである。</p> <p>2019年ラグビーワールドカップや、2020年東京オリンピックなど大都市圏への来訪が多く見込まれる機会をチャンスと捉え、外国人観光客に1泊でも多く本県を訪れていただけるよう、キャッシュレス化を受入態勢充実項目の一つに位置づけ、観光事業者への補助制度説明やキャッシュレス化のメリットの周知等引き続き取組を推進していく。</p> <p>なお、来年度、国で開発した生体認証システムを宿泊事業者等に整備し、スムーズな本人認証やキャッシュレス等を試行するための議案を11月県議会へ提出する。</p> <p>【11月補正】[債務負担行為]AI・IOTを活用した新市場創出促進事業（生産性革命） 10,716千円</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○鳥取砂丘未来会議は、鳥取大砂丘の将来展望を描き、実効性を持った計画を立て、大砂丘の保全と再生と活用が図られるように進めること。</p> <p>(1) 大砂丘周辺の藪は砂丘地への雑草を供給するだけでなく、人が入り込めなくなり、見栄えも悪くなる。大砂丘保全と再生のために除去すること。</p> <p>(2) 今後鳥取県や鳥取市にとって、大砂丘西側の活用が重要になる。積極的に進めること。</p>	<p>従来から鳥取砂丘再生会議の事業として、鳥取砂丘周辺保安林内の下層植生や枯木の伐採等を順次実施してきたところである。</p> <p>今後、鳥取砂丘の保全と利活用の一体的な議論を進めていくために、鳥取砂丘未来会議を11月20日に発足する予定であり、鳥取砂丘周辺の保安林内の景観整備や鳥取砂丘西側の活用についても、鳥取市と連携して取り組んでいきたい。</p>
<p>○障がい者雇用を進めること。</p> <p>国では、中央省庁の障がい者雇用水増し問題を受けて、今後の対応に関する基本方針案を公表したが、鳥取県庁内では水増しはなく、法定雇用率を達成している。</p> <p>ただ、県内全体での新規雇用1,000人創出(平成27年～平成30年度)に向けては、平成29年度末での純増は597人で、目標値756人に対し達成率79%と未達成である。実態調査等を実施して、平成30年度末での目標(1,000人)達成に向けて鋭意取り組むこと。</p>	<p>「障がい者の新規雇用1千人創出」については、関係機関・団体と連携した取組により、障がい者就職者は3か年(平成27～29年度)で1,904人となった。一方、本県の求職・就職者は増加傾向であるものの離職者も多く、平成29年度末の就業者数(純増)は597人とどまっていることから、現在、障がいを理解し働く現場で支える「とっとり障がい者仕事サポーター」の養成や、職場と障がい者を調整するジョブコーチ支援の充実等に取り組んでいるところである。</p> <p>また、障がい者雇用について昨年度企業アンケート調査を行ったところであり、この結果を踏まえ、職場定着のための環境整備や就労に必要な訓練、生活面の課題に係る支援等の一層の推進を図っていく。</p>
<p>○鳥取地どり「ピヨ」の成鳥生産再開までの間、消費者への供給体制を確保すること。</p>	<p>現在、生産から撤退する事業者は、複数の県内事業者に事業継承を依頼され、新体制での生産再開のため関係者と協議を重ねているところである。</p> <p>ブランクはできる限り短くというのが関係者の共通認識で年内の新体制立ち上げと年度内生産再開を目標としており、県としても生産から販売までを担う新体制の立上げに協力するとともに、生産施設の整備や食鳥処理担当者の人材育成に対する支援を検討している。</p>
<p>○鳥取砂丘コナン空港の駐車場拡充とハートフルスペースに庇を設置すること。</p> <p>搭乗客以外の利用者も増えており、「駐車する場所を探すのに苦労する」などの声がたびたび寄せられている。また、設置していただいていた屋根付きハートフルスペースは、空港ビル一体で場所を移動し、庇も付いていない。</p>	<p>鳥取砂丘コナン空港の駐車場については、当面の拡充として10月末時点で既に90台分を増設済みであり、今年度末までには更に48台分を増設する予定である。</p> <p>また、今後の駐車場拡充については、駐車場の利用状況を勘案しながら、現在、新たな駐車場整備について検討を行っている。</p> <p>ハートフルスペースの庇工事については、今年度予算化しており、既に工事業者と契約を締結し、来年5月頃に完成する見込みである。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
<p>○県立病院で、聴覚障がい者患者の意思疎通を図る手話通訳者を配置すること。</p> <p>聴覚障がい者には、筆談が苦手とか、漢字や専門用語が良くわからない、書けない方もいる。そういう理由で病院に行きたくないという方もいて、関係者は心配している。</p> <p>(1) 中央病院では、事務方に手話ができる職員がいるが、医師や看護師との通訳まで手が回らないようだ。聴覚障がい者患者が困らないように対応すること。</p>	<p>どちらの県立病院にも手話通訳ができる職員がおり、医師・看護師等との通訳を行っている。</p> <p>初めて受診される聴覚障がい者のかたには来院の際の受付でのお申し出や受診の途中に手話通訳の必要があった場合には、当該職員を呼び、手話通訳により受診の支援を行うこととしている。</p> <p>今後も、聴覚障がい者協会等の関係者から御意見をお聞きし、聴覚障がいのあるかたが安心して受診できるよう努めていきたい。</p>
<p>(2) 通訳できる人が付き添いで来ていても、診察室に同席させてもらえないとの声がある。本人の同意で同席・通訳できるように配慮すること。</p>	<p>どちらの県立病院においても、患者さまである聴覚障がい者と医師・看護師等との円滑な意思疎通のために、聴覚障がい者の受診の際には、診察室のみならず、処置室や検査室、放射線室等においても手話通訳者を診察に同席してもらうようにしている。</p> <p>今後も障がいのあるかたが円滑に受診できるような環境整備に努めていきたい。</p>